

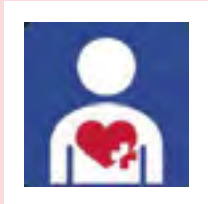
あいサポート運動の

取り組み内容



●耳マークの設置

耳の不自由な人が気軽に筆談を申し出てもらえるよう受付に表示。職員は手話研修を受講する。



●ハート・プラスマークの設置

多目的更衣室や更衣介助ルームに掲示し、内部障害者、内臓疾患者など「目に見えない障がい」のある人が安心して利用できるよう配慮する。

●ユニバーサルデザインの自販機の設置

お金の投入口や商品の取り出し口、商品選択ボタンの配置などを考慮し、誰もが使いやすいよう工夫されている。

●障がい者スポーツの支援

現在「日本障害者スポーツ協会公認障害者スポーツ指導員」(初級29人、中級2人)が在籍。障がいのある人を対象としたスポーツ教室で指導に当たる。今後さらに有資格者を増やし、障がい者スポーツの充実を図る。

活動行って

苦労したこと、
工夫したこと

困っている人を見たらすぐに声をかけるよう心がけています。体育館の入り口の段差を解消するスロープや芝生の中に道を作ってトイレに行きやすくするなど、利用者の声を受けて改善したものもあります。誰もが使いやすい施設を目指し、要望にはできる限り対応するよう努めています。

(コカ・コーラウエストスポーツパーク、小村仁志さん)

今後の展望、目標

手話言語条例の制定を受け、今まで以上に手話をはじめとした研修や講習会へ積極的に参加し、職員の資質向上に努めたい。障がい者スポーツ教室などの事業の拡大と充実を図り、ひとりでも多くの職員に有効な資格を取得させたい。

代表者のコメント

会長 油野利博



本会は、施設管理・運営を行う上で「誰もが利用しやすい、優しい施設であること」を理念としている。その中であいサポート運動の趣旨に賛同し、障がいのある人も利用しやすい施設づくりを目指してきた。今後もさらに研修や取り組みを充実させ、職員の資質を高めるとともに正しい理解を深め、障がいのある人もない人も一緒に暮らせる、あたたかい地域社会をつくることに貢献したい。

●問い合わせ・連絡先

TEL0857-28-1288
FAX0857-28-1399

自然体で接しながら社員一丸で協力体制

鳥取市

(株)ハウスクエアサービス



▲シュレッダーを使った廃棄作業。事務所に来ると、専用の箱の中にたまった資料を片付ける

<概要>

所在地／鳥取市商栄町135

代表者／代表取締役社長 梨原奨

事業内容／清掃用品(マット、モップ)のレンタル、
オフィスの定期清掃・保守、害虫駆除

職員数／5人

あいサポート企業になったきっかけ

知的障がいのある子ども(23歳)を持つ社員がいた。7、8年前から学校帰りに事務所に立ち寄るなど社員と交流があり、自然な流れの中で2010年10月、あいサポート企業に認定された。現在は事務所に立ち寄ったときに1時間ほど、軽作業を手伝っている。



▲社員にコーヒーを入れるのも日課のひとつ。「半分」「ブラック」など、コミュニケーションを通して人の好みも覚えた

あいサポート運動の

取り組み内容

障がい者を特別視せずできることをしてもらおうと、シュレッダーを使った資料の廃棄作業を担当させた。最初は遊びの感覚で一緒に作業しながら、やり方を覚えた。今ではゴミ捨てからシュレッダーが詰まったときの直し方まで、ほぼ1人で対応できるようになった。

障がい者本人の話

シュレッダーが詰まらないように3枚ずつ入れていきます。詰まったときはゴミを捨てます。シュレッダーの仕事が好きです。

保護者の話

物事を理解することが難しいので、いかに分かりやすく伝えるかが大切。一つひとつ根気よく、小さなことを積み重ねながら覚え、正確にできるように近づいている。事務所に来るようになって、あいさつや静かにすることなど、その場にあった立ち居振る舞いができるようになってきた。社員全員に育ててもらっている。誰かのために何かをするのが好きで、人に『ありがとう』と言ってもらえるのがうれしいようです。

総務・川口恵理さんの話

日々のコミュニケーションの積み重ねにより、彼女が何を思っているのか理解できるようになりました。心の壁を作らず、相手の立場に立って会話をしよう心がけています。私たちも一緒に学ばせてもらっています。

活動を行って

苦労したこと、工夫したこと

- 理解できるように伝える
 - ・資料のどちらが上か下か、絵やシールを付ける
 - ・(シュレッダーに紙を)「たくさん入れる(と詰まる)」→「1枚、2枚、3枚入れる」
具体的な数字で説明する
- 甘やかさず、一人の人格として接する
間違っていることは、その場で違うと教える

今後の展望、目標

障がいの有無に関わらず、人と人との関わりを大切にしたい。理解できるように根気よく説明すれば、障がい者にもできることはたくさんある。あいサポートの研修や講習会ももちろん大切だが、障がい者が地域の一員として一緒に暮らせるよう、福祉作業所への業務委託や地域での雇用創出が広がってほしい。

代表者のコメント

代表取締役社長 梨原 奨



一つひとつの取り組みや社員との交流を通して、彼女も少しずつ成長してきた。「頑張るから」「ちゃんとするから」と仕事に取り組む姿勢を認識し、働く意味を分かってきたようだ。「障がいがあるからできない」と甘やかしたり突き放すのではなく、見守ることが大切。いろいろな種類の障がいがあるが、これからも自然体で受け入れ、協力体制をとっていきたい。

●問い合わせ・連絡先

TEL0857-29-0909
FAX0857-29-0903

障がいのある人を手助けする環境づくりを推進

琴浦町

(株)井木組



▲あいサポートパンフレットを使い、障がいについて理解を深める社員や下請業者

<概要>

所在地/東伯郡琴浦町赤碕2000-1

代表者/代表取締役社長 井木敏晴

事業内容/ 工事部門、住宅部門、ブレインマンション、リフォーム事業

職員数/120人 (2013年9月末現在)

あいサポート企業になったきっかけ

身の回りにあるさまざまな人権問題について考え、理解を深めようと定期的に職員対象の人権研修に取り組んでいる中、2013年4月に琴浦町内に県立琴の浦高等特別支援学校が開校した。琴浦町がウェルカムプロジェクトを立ち上げるなど地域を挙げて応援する体制が整えられ、その取り組みに賛同しようと運動に参加し、2012年6月に認定を受けた。



▲県立倉吉総合産業高校管理棟新築工場の現場事務所入口に貼っているステッカー